

ジオコラム

あかいわの大地の成り立ち

④ 血洗の滝



ちあらい 血洗の滝は古生代の海底に降り積もった火山灰だった！

「血洗の滝」の名は、ヤマタノオロチを退治したスサノオノミコトが、この滝の水で血に染まった剣を洗い、身を清めたという伝説に由来します。



落差約11mの二段の滝で、季節を問わず涸れたことがないと言われています。吉井川の支流滝山川の上流に位置する血洗の滝は、海底に降り積もった火山灰が固まった酸性凝灰岩という硬く緻密な岩石できています。周囲には同じ海底に堆積した泥や砂が固まった粘板岩や砂岩が見られます。それらは、古生代ペルム紀の舞鶴層群と呼ばれる地層の一部だと考えられています。舞鶴層群は、周匝の城山公園周辺にも分布しています。



ジオポイント

●**放散虫化石**／海底で形成された岩石には1mmの1/10～1/20程度の大きさの放散虫と呼ばれるプランクトンの化石が含まれています。放散虫は世界中の海に生息し、時代とともに形態や種が変化することから、示準化石として岩石が堆積した時代の推定に利用されてきました。舞鶴層群も放散虫化石によって約2億7300万年前～2億5000万年前に形成されることが分かりました。その時代は、地球上の海洋生物の90%以上が死に絶えて、古生代という地質時代が終わりを告げるほんの少し前だったのです。

もっと知りたくなった人は、地球史研究所の先生に聞いてみよう！

▶地球史研究所 ☎956-3538 (※外出中で不在のときもあります)



放散虫化石の電子顕微鏡写真
(Nishimura, 1987より引用)



●問い合わせ先／本庁政策推進課 ☎955-2692